# 桐葉軒宗匠

百人首歌詞讀込秋五題俳句

百人一首歌詞読込秋五題

初汐

初汐や田子の浦浪残り　杢

初汐や海士の小舟をかりて漕ぐ

初汐や八十島かけて釣小舟

汐干や岸にさゝ波かへすあみ
汐干や人さへ知らぬ沖の石
汐干のあけぼの見たし田子の浦
汐干や由良の戸渡る梶の音
汐干や身の徒小舩遊び

芸郎

汐干やみしかき芦も浪の底
汐干に通ふ千鳥や須广明石
汐干や由良の戸渡る舟梶出
汐干や濡きわぞぬれし二見浦
汐干やかたく岩もあらき沖の石

雨亭

初汐や沖にたゞよふ浮鴎

初汐や末の松山越へて来ぬ

初汐や岩にあせかゝる汐かしら

初汐の浪にかられつ沖の石

難波江の芦の葉さきや秋の汐

水也

初汐やまつほの浦の夕景色

初汐や沖つ白浪江を洗ふ

初汐や岩にせかるゝ浪かしら

初汐やみしかき芦のふしのまに

初汐や行衛もしらぬ流さるゝ

水也

芭蕉　　小舟

洩れいづる月のさやけきばせを哉

乱をていして錦も玉巻くばせを哉

手秋にばせをこの葉を吹く秋哉

世をうしと捨てねばせをの花　一羅

明けぬまえたや風をもつばせを　千里

名香の玉ぞ散りける芭蕉の葉

破れより月もさしいづるばせを哉

風戦くばせをに靡て靡く秋扇哉

小秋子がおちて雨の音吹くばせを　一羅

百里

垂庵も元深川のなせをこふ紀
丸窓やなせを晴き抜出の月
風音も秋をかなきなせをこふ紀
我庵をはせを主ぞあり秋の露
侘びし古き軒端のなせをこと哉

水也

杖はきて古き軒端をなせをこの紀
庭すむ古き軒端や破はせを なせをこと
西風をかきちらす露なきなせをこふ紀
月見へて秋も来けり破芭蕉
吹くからに秋を音尊きなせをこ哉

無露のつれなく思へしませませ給

独庵の秋を来たり居を世を

白露に風の吹くを世をとの部

破るかなり秋ならん来なりを世をの
は

以上内や

轡虫

野の露や哉夜籠道めの轡虫

八重葎しげれる尾や轡虫

明けぬまま寝覚をまつる轡虫

草の庭や水引秋をくる蛇
むし

声のび鳴や声る心ふくるを
むし

芹志

鳴て世をすごしてよとや鈴虫

暑き小花之数日ふるさ鈴虫

八重葎志げれる跡やふるさむし

起き出て見れ者隣や鈴虫

鈴虫なくや庵ハ八重葎

三ケ 白里

秋もすから鳴のたわまず くつわむし

静きびて根ぞ夏ゆける鈴虫

無きてふ身に志のぞれん鈴虫

秋もすから伏藪の門や鈴虫

秋中の月遠しそろふり鈴虫

水也

西よりにかゝる龍ありくつわむし

思はれど秋もあはれな鈴虫

我庵は松虫之友よ鈴虫

草の戸や幾秋松虫のくらしむ

鈴むし多かゝりある年秋に

秋もすから松虫に声を鈴虫　　桃石

浅茅生の中野や秋すから鈴虫

更る秋の夜をゆるさじ鈴虫

盆の月

有明のつれなく見へし盆の月

あきれたらふ色きものや盆の月

盆の月取てきむくるかめあり

則

武びさに指さ出れど盆の月

踊狂人形たへで盆の月

傾城も涙ありけり盆の月

芹志

歎きて送る佛や盆の月

有明の頃も踊るや盆の月

盆の月傾くまでや唄の声

そかへりさんと悦びけり盆の月

皆ひまに法士の小船や盆の月

盆の月踊る乙女の姿かな

恨めしき朗ぼらけろ南盆の月

門詣やれしもかへるも盆の月

昼も旅ゆるおもひを盆の月

盆の月公翁煙やおもひわび

笑風

盆の月物やおもふと人ともし

盆の月更てさびしさまさりけり

きゝすぎだに長きにたへぬを盆の月

めぐりあひ昔の夜や盆の月

俤をおもひそめしか盆の月

水也

我袖の濡れかそぬるゝ盆の月

田子の浦に打出て見たや盆の月

新米

千早振[illegible]よりや七年米

新米や香に匂ひぬる俵哉

新米や幣もとりあへし神の棚

新米の舩賑しや難波潟

積みあまる古き軒端や七年米

千早振神代からや七年米

我庵へ積てたのしや七年米

今年来今日九星に貴二の始
新年来やかすほの庵の亭答より
新年来や猶あまりある日の恵み
手習根神代学として年来
見事さや古き拜端もて年来
水也

今年来坪処も同じ秋場哉
岸の女
新年来や新しくかへるも世の豊か
年うつりの秋ぞ来りて年来
舊飾の香に匂ひけりきとし来
新年や神に佛に身白山

高砂の浦や大帆の今年米

新米を積みたり不二の高ねほど

新米や民の浮世のゆたかなり

陸奥の早稲や中稲や今年米

刈あまり何る新米の年貢の船

秋山

植をまめて年々の甲斐や今年米

浪華

柳華書

春風や
山しらあみの波　芦き

行風し
つゝきき　水也

月影の
まよひの下　芹志

ちりもあれ色や
むかひの
雲むし

やまは
春の夜の
明けはなれ
香もし
名まし

やまは
龍もとりて
おもかけをとりつゝる
水也

名月もし
永寿

やまは
雲の月にてみゆる
さきもし
かなきかくさ
ゝ紙

やきは

新米のはちあや
いけにもしも
のしまし花
ふらく

山祥のや

やきは

くしもや
うきくもを
あさき
沖
のみえ

雪亭

もろこしの
月のさかりき
まはこの雛

やきは

人

小舟

あきの月に
ふりかへりく
眺めあかり

やきは

人

芥志

秋山

[illegible]

あ[illegible]錦

し

[illegible]来

[illegible]

青嵐や
す術の

水也

きんの

紅
椀
きん

天　水也

地　小舟

人　芹志

44290

之年季乃たへ　か　はやうゆもすきま
羅ら計にみとお言葉に心ふ八幡
梅樹かこいてなれの中にあそてひとしく
日あらわれ諸都の春を祝き
給ふ目出度をおかしく

とし乃まへ趣
り兼候しやしも
一生のゆめ

かね